

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和3年6月号



【那賀振興局】6/18 重点プロジェクト【モモ産地の生産力強化と病害虫対策】
～気象変動に対応した品種「さくひめ」の導入推進～

和歌山県農林水産部経営支援課
(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1
1. クビアカツヤカミキリの発生調査を実施	
2. 小学生を対象に田植え体験学習を実施	
II 那賀振興局	2-4
1. 重点プロジェクト【モモ産地の生産力強化と病害虫対策】 ～気象変動に対応した品種「さくひめ」の導入推進～	
2. 紀の川市新規就農者受入協議会が設立されました	
3. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
4. 岩出市特産『ねごろ大唐』について理解を深めました	
III 伊都振興局	5-6
1. かつらぎ町の小学校で果樹とクビアカツヤカミキリの出前授業	
2. 高野山麓精進野菜現地講習会及び出荷目揃い会	
IV 有田振興局	7-9
1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査	
2. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！	
3. 令和3年度有田農業技術者会総会を開催！	
4. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催！	
5. 「ヒメイワダレソウ」草生栽培をめざして	
V 日高振興局	10
1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】 ～低樹高化（カットバック）＋摘心処理による青梅生産拡大～	
VI 西牟婁振興局	11-12
1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】 ～ウメ摘心栽培実証園の収穫調査結果～	
2. ウメ「橙高」栽培実証園の収穫調査結果	
VII 東牟婁振興局	13
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病の簡易検定を実施～	
2. くろしおナス組合が現地検討会を実施	
VIII 就農支援センター	14
1. ウメ収穫（最盛期）の研修実施	

I 海草振興局

1. クビアカツヤカミキリの発生調査を実施

クビアカツヤカミキリは、体長3～4cm、前胸が明赤色。サクラ、ウメ、モモなど主にバラ科樹木を加害し、幼虫は樹木内部を摂食して枯死させる。県内では令和元年度にかつらぎ町内で被害が確認されて以降、伊都及び那賀地方において発生域が拡大している。

農業水産振興課では、JAわかやま、JAながみね、JAグループ和歌山農業振興センターと合同で、6月2日に海南市、紀美野町、6月28日に和歌山市内のウメ、モモ、スモモの34園地で、樹に本虫によるフラス（虫の排泄物と木くずが混ざったもの）の発生がないかを目視で確認したところ、発生は認められなかった。

本虫の発生拡大を防ぐためには早期発見が重要であることから、チラシ等を用いて生産者への注意喚起を継続する。また、8月以降に再度調査を実施する予定である。



発生状況調査

2. 小学生を対象に田植え体験学習を実施

農業水産振興課では、小学生等を対象に、農業や食物への関心を持ち、大切さを感じてもらうため、体験学習等の指導に取り組んでいる。

6月14日に和歌山市梅原の貴志正幸氏の水田において、和歌山大学教育学部附属小学校5年生96名を対象に田植え体験学習を実施した。

田植え体験では、貴志氏から苗の持ち方や植え方、注意事項について説明を受け、実際に水田に入り、田植えを体験した。ほとんどの児童は田植え経験がなく、素足で水田に入ることをためらう児童もいたが、田植え作業を進めるうちに、徐々に慣れ田植えを楽しんでいた。

10月には収穫体験を予定している。



貴志氏から説明



田植え体験

II 那賀振興局

1. 重点プロジェクト【モモ産地の生産力強化と病害虫対策】

～気象変動に対応した品種「さくひめ」の導入推進～

農業水産振興課では、近年の地球温暖化に対応した品種「さくひめ」の生産拡大に取り組んでいる。6月18日「さくひめ」現地検討会（JA紀の里主催）が、かき・もも研究所で開催され、管内生産者ら14名が出席した。堀田主任研究員から「さくひめ」の特徴として、「高接ぎで大玉化し、日川白鳳と同等または高い糖度となることや、自家受粉することなど」の説明があり参加者らは熱心に聞き入っていた。

かき・もも研究所では、6月16日、JA紀の里を通じて「さくひめ」を初出荷し、1箱13玉中心、糖度は14～15度中心と市場からも高評価を得ている。

当課では、今年度から現地2ヵ所で果実品質調査を行っている。苗木からの育成のため、やや小玉傾向であるが、2園地とも糖度は13～15度と品質は良かった。今後も調査を継続し、積み重ねたデータを元に栽培マニュアルを作成し、「さくひめ」の普及・推進に当たる。



収穫期の「さくひめ」



初出荷されたかき・もも研究所産の「さくひめ」



「さくひめ」の研修会に参加する生産者ら

2. 紀の川市新規就農者受入協議会が設立されました

6月4日、紀の川市新規就農者受入協議会（会長：下田和敬二氏）の設立総会が開催された。構成組織は紀の川市、紀の川市農業委員会、JA紀の里、紀の川市農業士会など。

本協議会は、農業担い手の受入基盤を整備し、新規就農者の「経営力」、「農業力」、「地域力」を磨き、独立までをサポートする受入組織として設立された。まずは9月からイチゴで研修生の受け入れを目指し準備を進めている。

また、7月に開催されるUIターン就農フェアへの出展や、現地での体験研修会の開催などを予定している。

農業水産振興課では、紀の川市新規就農者受入協議会のオブザーバーとして、新規就農希望者の受け入れを支援していく。



総会の様子

3. 食育・交流活動 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

6月17日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林元氏）では、紀の川市立川原小学校（校長：上野美幸氏）に開設している学童農園において、全校児童（48名）を対象に食育・交流活動としてニンジン、タマネギ、ジャガイモの収穫体験を実施した。同グループは、川原小学校の他市内2小学校でも同様の活動を行っている。

体験を始める前に会員2名が講師役を務め、「ニンジンには環境の影響を受けやすいので、抜いて確かめてみましょう」、「茎が伸びて花が咲く、いわゆる『坊さん』が出ているタマネギは食べてもおいしくないです」、「ジャガイモを抜いても、まだ土の中にイモが残っているので、もう一度土をよく掘ってみてください」などの説明があった後、児童らは早速分散して収穫作業に向かった。

参加した児童は収穫作業に一喜一憂しながら、「(多雨により根腐れしているニンジンが多い中) このニンジンもしっかりとした形で大丈夫だ!」、「掘った野菜はいい匂いがする!」、「野菜が色々な形をしていておもしろい!」といった歓声をあちこちで上げていた。

今回収穫したニンジン、ジャガイモ、タマネギは児童各自が持ち帰って家庭で調理するほか、市給食センターで肉じゃがやカレーの食材として使用される予定である。

農業水産振興課では今後も、グループの取組を支援していく。



収穫体験

4. 岩出市特産『ねごろ大唐』について理解を深めました

6月18日、岩出市立中央小学校5年生79人が、岩出市特産「ねごろ大唐」についてのスライドを鑑賞し、地域農業に対する理解を深めた。

例年、JA紀の里ねごろ大唐部会、小学校栄養教諭と普及指導員が連携して出前授業を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、小学校での出前授業は行わず、代わりにねごろ大唐が給食で提供される日に合わせて、スライドを流すこととなった。

ねごろ大唐部会 中村和史会長の協力のもと、過去の出前授業の内容を踏まえて普及指導員が作成したスライドで、栽培から出荷までの流れ、中村氏が栽培する上で大切にしていること、給食でねごろ大唐が使われていること、『ねごろ大唐じゃこ昆布炒め』の調理動画などを紹介した。

児童からは「ねごろ大唐が岩出市特産だとは知らなかった」、「『根来寺の大塔』『値ごろな大唐』という）名前の由来を知らなかった」、「売っている所が分かったので、買ってみたい」「教えてもらったレシピを試してみたい」といった感想が聞かれた。

本スライドは7月中旬までに、岩出市内全小学校の5年生が鑑賞する予定となっており、農業水産振興課では今後も、子供達が地域農業への理解を深めるとともに、食べ物を育てている人の努力や苦勞を知り、食べ物を大切にしようとする感謝の気持ちが醸成されるよう、関係機関と連携して食育活動を行っていく。



給食時間にスライドを鑑賞



「ねごろ大唐」についてのスライド

Ⅲ 伊都振興局

1. かつらぎ町の小学校で果樹とクビアカツヤカミキリの出前授業

かつらぎ町や橋本市では、クビアカツヤカミキリ幼虫による被害樹が増加している。本年、かつらぎ町の子供たちが地域農業への理解を深める機会の中で6月4日にかつらぎ町立笠田小学校5年生、6月21日に同町立渋田小学校4年生、同町立梁瀬小学校5、6年生（同町立渋田小学校とオンラインで同時開催）を対象に「本県の果樹生産の現状（クビアカツヤカミキリの被害）」をテーマに間佐古普及指導員が農業環境・鳥獣害対策室の職員とともに出前授業を行った。

かつらぎ町は、果樹生産が盛んな地域であり、カキやスモモが県内で最も多く、モモやウメの栽培も盛んであることや、本害虫で核果類果樹や桜が枯れる心配があることなどを紹介した。被害拡大防止には、成虫や被害樹を早期に発見することが重要であるため家庭や学校で話題にしてほしいと呼びかけた。



出前授業 笠田小学校



啓発チラシ

2. 高野山麓精進野菜現地講習会及び出荷目揃い会

伊都地域では昔から地元野菜を高野山へ奉納する雑事登（ぞうじのぼり）と呼ばれる歴史・伝統がある。そこで平成31年3月に高野山麓農産物産地化協議会（構成委員：橋本市、橋本市農業委員会、J A紀北かわかみ、農業者、農産物販売業者、伊都振興局、オブザーバー：かつらぎ町、九度山町、高野町）を設立し、高野山麓精進野菜の栽培基準を設け地元野菜のブランド化に取り組んでいる。

6月9日、高野山麓精進野菜現地講習会を橋本市隅田地区のナス栽培ほ場で開催し、生産者、新規栽培希望者及び関係者併せて25名が参加した。

はじめに、農業水産振興課久保普及指導員からナスの仕立て方や整枝方法について実演しながら説明を行った。続いて園主の松本利宏氏が農薬や肥料など栽培管理について説明した。

参加者からは「畑で作物を見ながらの説明だったのでわかりやすかった」、「追肥の施用時

期や方法は？」等の意見や質問があった。

6月29日に橋本市民会館で高野山麓精進野菜の出荷目揃い会を開催し、生産者及び関係者併せて22名が参加した。生産者が栽培したナス、シシトウ、ピーマン、キュウリ等を持ち寄って出荷基準の統一を行った。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



ナス現地講習会

IV 有田振興局

1. 特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」侵入実態巡回調査

モモ・ウメ・スモモなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」は県北部で被害が確認されている。このクビアカツヤカミキリが県中部の有田地域に侵入していないかJAありだと共同で6月7日から6月28日の間の4日間、参加者のべ12人で巡回調査を行った。調査は11園地、スモモ147樹、モモ38樹、ウメ80樹で行った。今回の調査では被害は確認されなかった。今後も継続的に調査を実施するとともに、チラシ等により意識啓発を行っていく。



巡回調査

2. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！

有田市立糸我小学校（土岐哲也校長）では、糸我地区青少年育成会主催のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

6月10日に、全校児童による田植えが行われた。（前日は5年生による苗取りも実施）

25名の地元農家が支援し、「田んぼの学校」校長である山崎佳彦氏（元指導農業士）が田植えの方法について説明した後、児童は一列に並び、慣れない田んぼに足をすくわれながらも1株ずつ丁寧に植えていった。

終了後、児童からは「もっとやりたい」、「稲刈りが楽しみ」などの声が聞かれた。

また、同月17日にはアイガモとアヒルのヒナを放鳥した。児童が孵化させたアイガモ16羽と大阪の業者より購入したアヒルのヒナ20羽の計36羽を田んぼに放った。

今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、食育活動の支援を行っていく。



田植えの説明をする山崎氏



田植え

3. 令和3年度有田農業技術者会総会を開催！

6月23日、有田振興局にて有田農業技術者会の令和3年度総会を開催した。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した開催となり、会員14名が出席した。同会は農業水産振興課普及グループ、果樹試験場、JAありだ、JAグループ和歌山農業振興センター、農業共済、土地改良区、教育機関等から構成される団体（会員63名）であり、振興局が事務局を務める。

総会では、令和2年度の事業報告・会計報告及び令和3年度の事業計画・予算案、新役員案が全て承認され、会長にはJAありだの竹田耕平氏が選任された。

同会では、地域農業振興のため、かん水情報の提供、チャノキイロアザミウマやカメムシの発生予察調査等を実施していく計画となっている。



総会開催の様子

4. 御霊小学校でみかんの摘果授業を開催！

有田川町立御霊小学校では、地元産業への理解を深めるため、3年生（52名）の総合的な学習の授業で温州みかんの学習を行っている。

6月30日、第1回目の学習としてみかんの摘果授業を行った。授業では、萩平普及指導員がみかんの栽培管理を説明し、その後、学校付近の園地で有田川町青年農業士の玉置泰伸氏指導のもと摘果体験と、収穫までの課程を見るために、児童それぞれが果実にラベルを巻いた。

児童からは、「どの実を摘果したらいいの？」、「摘果しないとどうなるの？」といった質問が数多く飛び出した。農業水産振興課では、今後も農業教育推進事業として学習の支援を行っていく。



玉置泰伸氏による農作業の説明



摘果体験

5. 「ヒメイワダレソウ」草生栽培をめざして

果樹栽培において園内の草管理は作業性や肥培管理等にも関係する重要な作業である。また、農業士会会員には環境負荷の少ない草生栽培に興味を持つ会員もいる。

今回、農業士会の機関誌「和歌山の農業士」に投稿のあった海南市でのヒメイワダレソウの記事に興味を持った会員の希望により、農業士会員3名及び農業水産振興課普及指導員2名で栽培状況の見学、調査を6月29日に実施した。

園主で海南市農業士の岩本氏から導入の経緯や管理方法などの説明があった。場所は海南市下津町の南面傾斜地階段園で、ヒメイワダレソウの小さな花が所々で咲いていた。見学時は一面がヒメイワダレソウの状態でなく所々にヤエムグラなどの春草が覆っているところもあった。しかし、これから夏に向けてヒメイワダレソウに覆われていくとのこと。

岩本氏はこれ以外にもいろいろと草生栽培向けの草種を試したそうだが、繁殖力が旺盛で、乾燥に強く夏期の草生には最も適しているとのことである。この他、樹に這い上がらない、養水分の競合がない、害虫の宿主にならないなど、カンキツの草生栽培に向いている点が多い。踏圧にも強く、栽培歴10年程度の畑は、歩くと敷き詰められた茎葉の緩衝で柔らかく感じられた。

会員達が最も気になっていたのが繁殖方法である。これも発根しかけた枝を切断し植え付けるだけ。梅雨の頃なら簡単に活着し、繁殖容易である。いいことづくめで、観光農業の果樹園づくりに取り入れたい様子であった。



園主から説明を受ける会員達



ヒメイワダレソウの繁茂状況

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【梅産地の競争力強化と労働力確保対策】

～低樹高化（カットバック）＋摘心処理による青梅生産拡大～

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州、みなべ町と連携し、青梅の生産性向上を図るため、ウメ「南高」の低樹高化（カットバック）に摘心処理を組み合わせた現地実証園（みなべ町熊瀬川地区、同清川地区）を設置している。

カットバック処理は、樹高や着果位置が低下し青梅収穫等の作業が容易となる反面、結果枝が一時的に減少するため、翌年の収量が低下する課題があった。

そこで、新梢の摘心処理を組み合わせることにより、徒長枝となる枝を結果枝化し、収量の確保に取り組んでいる。また、この処理により冬季のせん定作業の省力化も可能である。

6月15～23日、熊瀬川地区及び清川地区で収量調査を実施した。

1樹あたりの目標収量は90kgに設定しているが、熊瀬川実証園（設置4年目）は73.4kg、清川実証園（設置3年目）は109.7kgであった。

両実証園とも、着果位置が下がることにより収穫作業が容易だった上、前年より収量が増加しており、概ね良好な結果を得ることができた。

今後は、11月頃にみなべ町西本庄地区及び日高川町松瀬地区で、カットバック処理現地研修会を実施して周辺農家への導入推進を図ることとしている。

収量調査結果

	調査本数 (本)	合計収量 (kg)	1樹あたり収量 (kg)
熊瀬川実証園	4	294.8	73.7 (前年:46.4)
清川実証園	6	657.9	109.7 (前年:48.5)



熊瀬川実証園



清川実証園

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なウメ産地の発展】

～ウメ摘心栽培実証園の収穫調査結果～

ウメ「南高」の着果安定対策として、平成25年から継続して取り組んでいる摘心栽培実証園（田辺市中三栖）の収穫調査を、6月3日と9日に農業水産振興課の普及指導員で行った。

実証園の調査結果は、1樹平均（15年生樹）で摘心樹が慣行樹に比べ1.4倍（図1）、また8カ年の累積収穫量を比較しても1.4倍（図2）となり、摘心による増収効果が認められた。

当課では今年度も田辺市新庄町、上芳養地区、秋津川地区において摘心栽培講習会を実施しており、本実証園等で得られたデータを基に摘心処理の効果を情報発信しているが、今後とも引き続き講習会や生産者の集う場でPRを行い、取り組み面積を増やしていく。

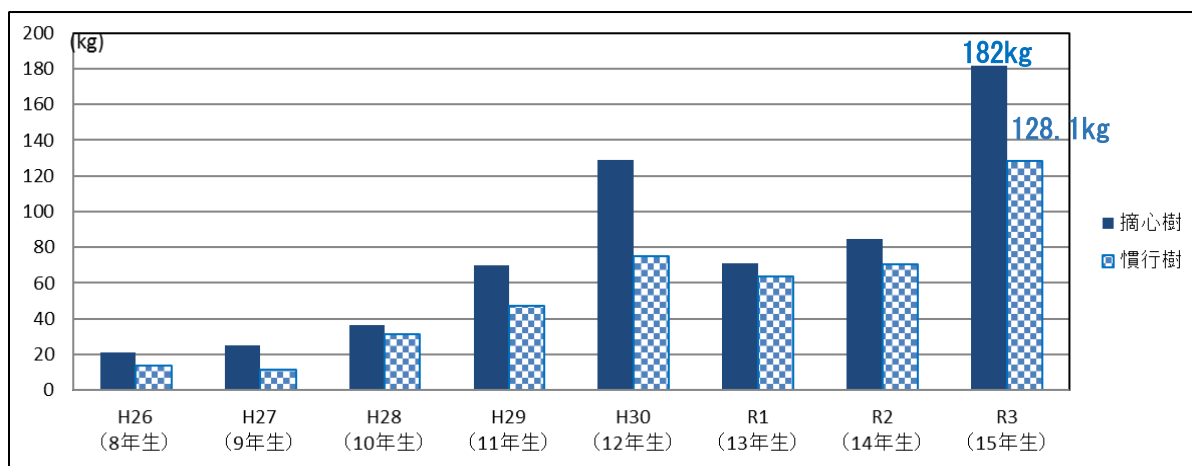


図1 摘心栽培 1樹あたり収穫量の推移

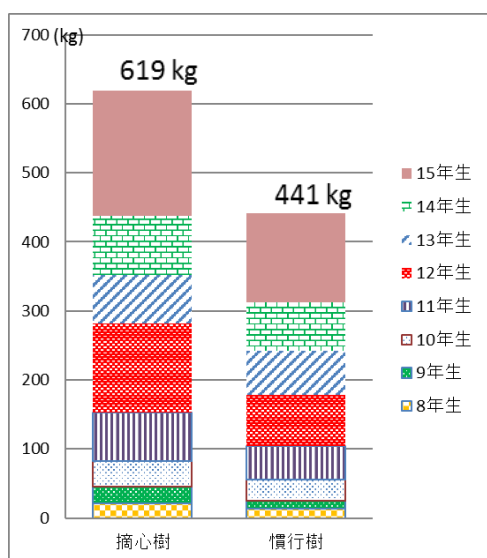


図2 8カ年の累積収穫量



収穫調査(6/3)

2. ウメ「橙高」栽培実証園の収穫調査結果

農業水産振興課では、ウメの梅干し用途以外の新たな需要拡大を図るため、6年前から県オリジナル品種で機能性成分（β-カロテン）が豊富な「橙高」の導入推進に取り組み、田辺市上芳養に栽培実証園を設けている。実証園では早期成園化に向けて、若木から多収が見込まれるスレンダースピンドルという整枝方法（主幹形の一つで樹高を2.5m程度に止め、樹冠をコンパクトに維持する）を用いて、密植栽培（植栽本数48本/4a）に取り組んでいる。6月18日に収穫調査を園主、JA紀南営農指導員、うめ研究所研究員及び当課普及指導員の計9名で行った。結果は、主幹形樹と開心自然形樹の1樹平均（7年生樹）を比較したところ、主幹形樹は6.68kgで開心自然形樹の6.24kgよりも1割程度多かった。また、実証園全体の収穫量は389kgと昨年より2倍の増収となった（図1）。

等級を「秀」「優」「良・外」の3分類に選別したところ、秀品率は70%と高く、「良・外」の多くは、かいよう病斑や降雹による被害果であった。昨年産の反省から4月上旬に摘果の実施、かいよう病対策として薬剤散布のローテーションを変更したことで、大玉果の割合が増え、秀品率の向上に繋がった。

収穫した果実は全量をJA紀南に出荷し、JA紀南販売部では従来から取引のある大手梅酒製造メーカー等に販売する。

当課では、引き続き実証園の栽培管理を通じて、早期成園化技術の実証に取り組むとともに、導入面積の拡大に向けて「古城」や「露茜」の受粉樹としても導入推進を検討する。また、「橙高」の特徴を活かした加工品開発を進めるため、今後とも関係機関と連携していく。

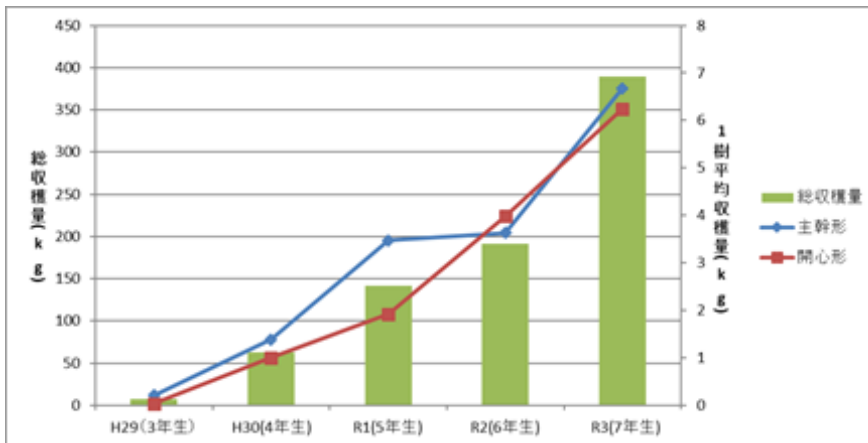


図1 1樹当たりの収穫量と総収穫量の推移



1本ずつ収穫量を調査



主幹形樹の着果状況

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】

～イチゴ炭そ病対策研修及びイチゴ炭そ病の簡易検定を実施～

6月8日、農業水産振興課では、JAみくまの共催でJAみくまのトレーニングファームの研修生（準備型）と新規就農者（同ファーム修了者）の3名を対象に、イチゴ栽培の技術向上を目的にイチゴ炭そ病対策研修（第1回イチゴセミナー）をJAみくまの太田営農センターで実施した。

坂井普及指導員がイチゴの重要病害である炭そ病の被害程度や防除方法、炭そ病検定の必要性和簡易検定方法を説明した後、JAみくまの笹平主事と浅井普及指導員とともに、採集した葉でイチゴ炭そ病簡易検定の実習を行った。

検定の前処理として、研修参加者が採集した9検体と管内のイチゴ農家8戸が採集した24検体を、葉の洗浄やエタノールでの消毒、乾燥後シャーレに入れ、潜在感染している菌の発現を促すために恒温器（28℃）で2週間保管した。

6月23日、前回（6/8）の参加者とともに、葉に発生した孢子塊から炭そ病感染有無の判定を行い、結果や炭そ病の対処方法を各農家に伝えた。

当課では、今後も関係機関と連携して、イチゴセミナーや現地検討会により研修生や新規就農者の育成と産地の振興を図っていく。



炭そ病簡易検定の判定（6月23日）

2. くろしおナス組合が現地検討会を実施

6月22日、くろしおナス組合（会長：松本安弘氏）は、那智勝浦町及び新宮市の会員それぞれの園地を巡回してナスの生育・着果状況等を調査した。生産者、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課併せて11名が現地検討会に出席した。

ナスの生育状況は、園地差があるものの全体としてほぼ平年並みであった。また、5、6月の天候不良によるうどんこ病の発生や、一部の園地ではカタツムリによる新葉の加害が確認され、防除方法について参加者で意見交換が行われた。

また、坂井普及指導員からハダニやタバコノミハムシの管内の発生状況や防除について説明をした。

当課では、今後とも関係機関とともにくろしおナス組合の栽培技術の支援を行い、収量増加と高品質化を目指していく。



生育・着果調査

Ⅷ 就農支援センター

1. ウメ収穫（最盛期）の研修実施

就農支援センターでは、ウメ収穫の最盛期を迎えた。社会人課程（転職者等職業訓練「農業科」）および技術修得研修（第1班）の果樹実習において、研修生はウメの収穫方法、選果、ケシキスイの幼虫駆除などウメ農家として必要な知識を学んだ。

実習では、主に梅酒、梅シロップに加工される青ウメを一粒ずついねいに収穫し、選果機で傷果や大きさに選別した。その後、市場出荷するため、箱詰めなどの荷造りまで一連の作業を行った。

また、完熟して落ちた梅は収穫後、幼虫駆除を目的に、1時間ほど水浸漬処理を行ってから、塩漬けの方法を学んだ。



ウメの選果



ウメの水浸漬処理

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489